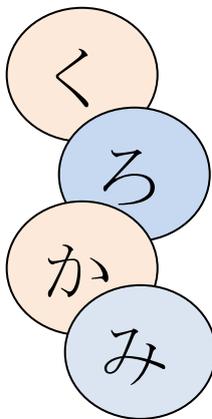




佐世保市立黒髪小学校

所在地 佐世保市黒髪町5 2 - 1
 校長 吉田 秀雄
 児童数 4 6 9 名
 学級数 1 7 学級



工夫し

論じ合う子ども

体と心をきたえ合う子ども

認め合う子ども

【目的】

ひと、ふるさと、社会とつながることにより、将来への夢や希望（ロマン）を抱き、その実現のための確かな学力を身につけた、心豊かでたくましく生きる黒髪っ子の育成を目指す。



| | | |
|---|--|--|
| <p>体験活動により、人とつながり、触れ合う。</p> | <p>地域の自然や施設、歴史や文化などについて感心を持つ。</p> | <p>福祉・平和など、社会事象について体験的に学ぶ。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・栽培活動 ・体験活動 ・家族や地域とのつながり ・人への関心 ・相手の思いや願い ・コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然 ・地域の施設 ・地域の歴史、文化 ・ふるさとへの愛着 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流 ・障がいの擬似体験 ・自分にできる社会貢献 ・戦争の悲惨さ ・平和の大切さ |

(1) 夢や希望(ロマン)を抱き、心豊かでたくましく生きる黒髪っ子の育成

【第1・2学年】「ぐんぐんのびろ」「老人クラブとの交流」(ひと)(ふるさと)

【ねらい】

- ・野菜を育てることで、命を大切に作る心を育てる。
- ・地域のお年寄りに昔遊びを教えていただくことで伝統的な遊びに親しむとともに、地域の方との交流を深める。

【活動の概要】

- ・さつまいもやミニトマト、ピーマン、キュウリを育てた。
- ・つるさしや収穫では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、その方法やお世話の仕方を教えていただいたりお手伝いいただいたりした。
- ・昔遊びでは2年生がリーダーとなって1年生のお世話をしながらお年寄りとの交流を深め楽しんだ。

【成果と課題】

- ・ゲストティーチャーの話聞くことで命の尊さに気づき、熱心に世話をすることができた。また、自分たちで世話をした作物を食べることで収穫の喜びを感じ、また、食べ物への感謝の気持ちをもつことができた。
- ・昔遊びを通して、地域のお年寄りとの交流を深めることができた。また、2年生としての自覚を持って1年生のお世話をすることができた。



【第3学年】「1年生との交流会」(ひと)(ふるさと)

【ねらい】

- ・自分より年下の子にどのように接するかを考えさせ、親切な行動を心がけることで思いやりの心を育て、相手の立場に立って考え行動できるようになる。

【活動の概要】

- ・地域の方の協力により、校外に出て1年生と一緒に芋ほり体験をし、収穫の喜びを体感した。
- ・1年生との交流会の計画を立て、グループごとに楽しい活動内容を考え準備し、仲良く活動することができた。1年生との手紙の交流もした。

【成果と課題】

- ・1年生が喜んでくれるように交流会の計画・準備をしたり、優しく接したりする中で、年長者としての意識を高めることができた。
- ・芋ほり体験でお世話になった方々に、児童からお礼の手紙を届け、地域の方にも喜んでもらい、つながりを深めることができた。



【第4学年】「二分の一成人式」(ひと)

【ねらい】

- ・今まで育ててくれた家族やお世話になった人への感謝の気持ちを育て、将来の夢に向かって努力する態度を育てる。

【活動の概要】

- ・これまでの自分や今の自分、将来の夢、20才の自分への手紙を「マイブック」としてまとめた。
- ・「二分の一成人式」では、一人ずつステージの上で将来の夢を発表した。

- ・よびかけや歌で成長や感謝の気持ちを表現した。
- ・保護者へ感謝の手紙を渡したり，保護者から児童への励ましの手紙を渡してもらったりした。

【成果と課題】

- ・活動を通して，成長した自分や家族のありがたさを改めて感じる事ができた。
- ・自分の夢を発表したり，保護者から励ましの手紙をもらったりすることで，夢へ向かって努力しようという気持ちが高められた。



【第5学年】黒髪の歴史や伝統芸能を伝えよう」（ひと）（ふるさと）

【ねらい】

- ・黒髪地区に昔から伝わる伝統芸能である「木場浮立」の由来や歴史を知り，体験意欲をもたせる。また，体験活動のまとめとして発表会を行うことで，活動の達成感を味わわせるとともに，郷土への愛着や親近感を深め，郷土を愛する心情を育てる。

【活動の概要】

- ・木場浮立資料館へ見学に行き，保存会の方に木場浮立の由来や歴史について講話をしていただいたり実際に使われている道具や写真を見たりして木場浮立に対する知識を深めた。
- ・「2月の授業参観で木場浮立発表会をしよう」という目標に向かい，保存会の方に10時間に渡ってご指導いただき，それぞれの役回りを習得し，多くの方々を招待して木場浮立発表会を実施した。

【成果と課題】

- ・木場浮立資料館の見学や保存会の方の指導を受けての練習を行えたことで，木場浮立に対する正しい知識を得ることができた。また，見学・練習・交流を通して，木場浮立に対する愛着・伝統を受け継ぐことの素晴らしさを体感することもできた。
- ・保存会の方の高齢化や継承者の減少のため，継承活動が困難になっている。活動の様子を写真やビデオに保存し，今後も継続して黒髪小学校での継承ができるようにしている。



【第6学年】「お年寄りが生き生きと暮らせる社会に」（ひと）

【ねらい】

- ・お年寄りとのコミュニケーション力を身につけるとともに，相手を思いやって行動する態度を養う。

【活動の概要】

- ・校区内にある特別養護老人ホーム「チューリップ」のお年寄りとのふれあいを2回行った。ふれあいに先だって，チューリップの職員に，どのような施設であるか，お年寄りのみなさんとはどのようにふれあえばよいかを話してもらった。
- ・1回目と2回目のふれあいの間には，社会福祉協議会から高齢者疑似体験セットを借り，お年寄りの体と思ひ，介護する側の心構えや思いを体験した。その体験と1回目のふれあいの反省を生かし，2回目のふれあいを行った。
- ・ふれあい後，「お年寄りが生き生きと暮らせる社会にするために，自分たちができることはないだろうか」というテーマで，アンケートやインタビュー，本やインターネットでの調べ学習を行い，5年生を

相手に設定してポスターセッションを行った。

【成果と課題】

- ・お年寄りとふれあったことにより、コミュニケーション力を高めることができた。
- ・ふれあいから調べ学習を通して、相手の立場や気持ちを思いやる心を育てることができた。
- ・ポスターセッションを行うことで、表現力を高めることができた。
- ・活動が6月から2月までに渡ってしまい、少し間延びした感があった。12月までに終わるようにしたい。



(2)「確かな学力を身につけた」黒髪っ子の育成

①子どもたちの実態把握

以前から本校児童の学力における課題として、国語科の書く力、算数化の思考力・活用力の不足が挙げられている。また「学習意欲」についても不足している面が感じられる。そこで、取り組みを始める4～5月に2～6年生で学力テストを実施した。また、学習意欲向上のため、「生き生き黒髪っ子アンケート」を作成し、6月と12月に児童の意識調査を行った。



②校内研修の充実

前述の児童の実態を踏まえ、今年度の校内研修テーマを「意欲をもち、生き生きと活動する黒髪っ子の育成をめざして」と設定し、児童の意欲を高める集団づくり、授業づくりの研究を行った。

ア：研究の土台づくり

本年度は「児童の意欲向上」を目指す研究の初年度として、研究構想をもとに目指す児童像を設定したり、集団づくり、授業づくりにおける共通実践を検討・実践したりと、研究の土台づくりに取り組んだ。

イ：児童の意欲を高める授業の展開

- ・ 「～してはいけない」などの禁止ではなく、温かい雰囲気の中で決められた合図による指示をだすことで規律ある学習態度を育成できた
- ・ 低学年では共通の音読指導に取り組み、表現力や相手意識の向上が見られた。
- ・ 中学年では国語科でグループ学習による言葉マッピングを取り入れたことにより、語彙力向上、思考力・表現力向上につながった。
- ・ 高学年ではトリオ学習や「個人→ペア→全体」という学習形態を取り入れることで、算数や国語科における表現力、理解力、相手意識の向上につながった。

③成果と課題

- ・ 児童の意欲向上の実態を把握するための「生き生き黒髪っ子アンケート」の結果、「規範意識」「ほめ、励ます友達や先生とのかかわり」「自己肯定感」が向上したことがわかった。
- ・ 職員による自己分析の結果では、授業づくりにおいて「本字のめあてを明確にする」「自然な教え合いができる雰囲気づくり」「呼び捨てをしない指導」「話す力・聞く力レベル表の活用」等の意識が高まっていることがわかった。
- ・ 6年生の全国学力学習状況調査「算数」においてA・B問題ともに、県平均および全国平均を上回った。